

米倉教公の週間為替市場見通し

4/25 日週号

『日米金融政策会合が焦点！』

ドル/円予想レンジ 108.00 - 114.00 円

■前週の市場動向

前週のドル/円の週足では、2週連続の陽線引けとなった。週明けの18日は17日の産油国会合で増産凍結が不調に終わったことからドルが売られる展開となった。その後は、原油価格の下げ幅縮小や米国株上昇で反転した。翌19日はクウェートのストライキが続いたことで原油高・株高を背景にリスク選好の動きが強まり買いが強まった。20日はクウェートでストライキが終了した報道を受けて原油価格が下落すると売られた。しかし、『産油国会合がロシアで5月に開催される可能性もある』との報道を受けて原油価格が上昇したことで再びリスク選好の買いが強まった。21日は一時109.89円まで上昇したが、110.00円に観測されているオプション絡みの売りが上値を抑制した。原油価格が軟調となり株価の上昇も一服すると109円台前半まで下押しした。22日は日本株が売り先行となるなかりリスク回避の動きとなったが、日銀が『日銀が金融機関への貸出にマイナス金利適用を検討する』との報道を受けストップロス巻き込みながら上げ幅を拡大した。

■今週の注目点：今週の注目は日米金融政策会合

今週は、26-27日開催のFOMCでは、イエレンFRB議長の記者会見は予定されていないため、利上げが見送られる公算が大きい。そのため、声明文で6月利上げに向けた地ならしをどれだけできるかが注目される。27-28日開催の日銀金融政策決定会合では、前週末の観測記事を切っ掛けに相場が大きく動き、日銀の追加緩和を先取りする展開となった。市場では催促相場の様相が強まっていることもあり、日銀としても何らかの措置は打ち出してくるとの見方が優勢となっている。一方で日銀会合では昨年12月、今年1月と、緩和方向への政策強化が行われたが、一時的な円安・株高のあと、失望や材料出尽くしで円高・株安に転じる逆効果となった。そのため、今回は政府による震災復興対策を含めた財政出動や成長戦略、市場安定化策といった援護射撃も期待される。

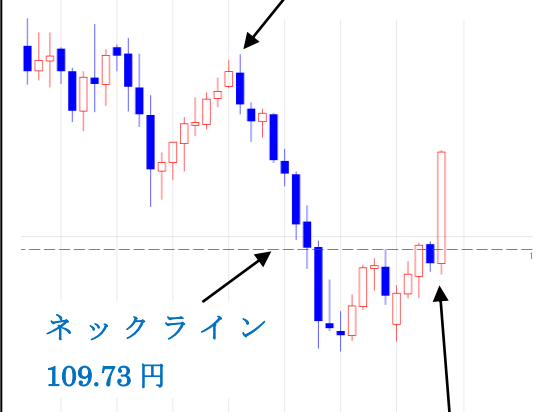
■テクニカル的な見解

4月19日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+66,190から+71,870へと円の買い持ち高は少なくとも1992年来で最大となった。市場の円買い持ちが膨らんでいたこともあり、前週末に円の下落余地を広げた。テクニカル的には、4月11日と4月18日をボトムとして形成したダブルボトムの109.73円のネックラインを確り上抜けしてきた。ただ、ストップロス巻き込んだ急上昇ということもあり、週初は利益確定売りも入りやすい。その際は、3月29日高値と4月11日安値の半値戻しと重なる基準線の位置する110.70円が下値支持するかが注目される。29日から水星逆行が始まる。この期間の前後3日からボラティリティが高まるので注意。ドル/円の上値目途は、一目均衡表の雲下限の112.64円、3月29日の高値113.80円が目途となる。一方で下値は一目均衡表転換線の109.81円、22日安値109.22円、節目となる109.00円や108.50円、108.00円が目途となる。

ドル/円：日足

終値：111.77円

高値113.80円



ダブルボトムネックライン上抜け

★先週の気になる出来事

前週末に『日銀が金融機関に対する貸出に対しても、マイナス金利を適用することを検討する』との報道を受けて大幅に株価上昇・円安のリスク選好の動きが強まった。ただ、この記事はあくまで観測記事であって信憑性に欠け、ただ検討しているだけの話かもしれない。しかし、この観測記事だけで2.50円も円安になるとは。大抵はアジア時間帯で盛り上がりつつも、週末NYタイムまでには終息することが多い。そういう面でも、高値引けは非常に違和感のある市場に感じた。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。